



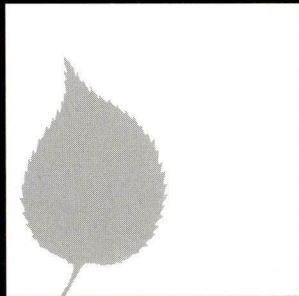
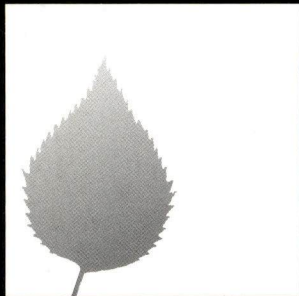
アマチュアオーケストラ

新交響楽団第150回演奏会

The New Symphony Orchestra The 150th Concert

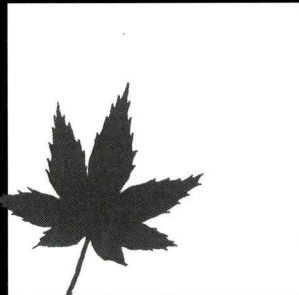
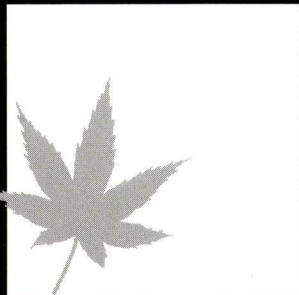
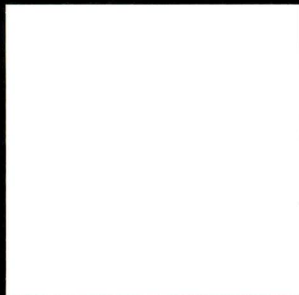
指揮|原田幸一郎

HARADA Koichiro, conductor



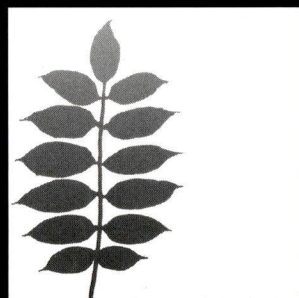
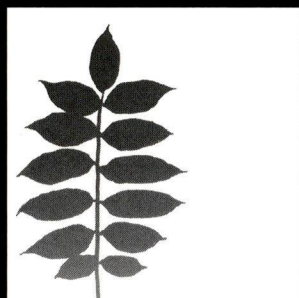
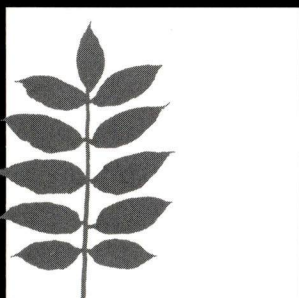
ブラームス|悲劇的序曲

Johannes BRAHMS(1833-97): Tragic Overture Op.81, 1880



ヒンデミット|ウェーバーの主題による交響的変容

Paul HINDEMITH(1895-1963): Symphonic Metamorphoses on the theme of C.M. von Weber, 1943



ベートーヴェン|交響曲第3番変ホ長調「英雄」

Ludwig van BEETHOVEN(1770-1827): Symphony No.3 "Eroica" Op.55, 1804

1995年10月15日(日)2:00pm 東京芸術劇場

Sunday, October 15, 1995 at Tokyo Geijutsu Gekijo(Ikebukuro sta. west exit)

150回演奏会を迎えて

新交響楽団の第1回から第150回までの演奏会記録を振り返ってみますと、あらためてその時々の方員の音楽に対する夢と気概を感じるができます。

新響を取り巻く環境はめまぐるしく変化してきましたが、この長い歳月のなかで、私達の信念は少しも変わることがありませんでした。それは、真に音楽を愛し、追求し、アマチュアでしか味わえない音楽的体験を重ねることによって私達の力を最大限に発揮させるということなのです。新響はこのことを目的として歩んでまいりました。そして、いま、新響は団員個々の熱意と素晴らしい指導者に恵まれ、かつてないほどの活況を呈しております。

新響は来年創立40周年を迎えます。本日の演奏会は、40周年の企画に向けての通過点であり、且つあらたなる出発でもあります。芥川先生亡き後、私達新響と最も縁の深い原田幸一郎先生の指揮にて演奏できるのもこのうえない喜びです。

団長 土田恭四郎

アマチュアオーケストラ

新交響楽団第150回演奏会

The New Symphony Orchestra The 150th Concert



指揮：原田 幸一郎

HARADA Koichiro, conductor

ブラームス：悲劇的序曲

Johannes BRAHMS: Tragic Overture Op.81, 1880

ヒンデミット：ウェーバーの主題による交響的変容

Paul HINDEMITH: Symphonic Metamorphoses on the
theme of C.M.von Weber, 1943

——— 休 憩 ———

ベートーヴェン：交響曲第3番変ホ長調「英雄」

Ludwig van BEETHOVEN: Symphony No.3 “Eroica” Op.55, 1804

第1楽章 *Allegro con brio*

第2楽章 *Adagio, assai*

第3楽章 *Scherzo, Allegro vivace*

第4楽章 *Finale, Allegro molto*

1995年10月15日(日) 2:00p.m.

東京芸術劇場大ホール

Sunday, October 15, 1995 at Tokyo Geijutsu Gekijo

主催：新交響楽団

●指揮

原田 幸一郎

HARADA Koichiro, conductor

1945年生まれ。桐朋学園とジュリアード音楽院で斎藤秀雄、秋山和慶、ドロシー・ディレイ、イヴァン・ガラミアン氏にヴァイオリンと室内楽および指揮法を学ぶ。

69年から12年間、東京クワルテットの第1ヴァイオリンを務め、世界の檜舞台で常に高い評価を受けて来た。

81年に東京クワルテットを離れ、クリーヴランド音楽院のヴァイオリン科主任教授とイエール大学、アスペン音楽祭でも教鞭をとりつつ、室内楽奏者として、ニューヨークのリンカーン・センターやワシントン D.C. 等のコンサートで広く活躍している。

83年から日本に居を移し、ソリストおよび室内楽奏者として内外で活躍。さらに86年には数住岸子と“NADA”(ナーダ)室内楽シリーズをスタートさせている。

88年4月、九州交響楽団の<モーツァルト定期>で指揮デビューを飾り、翌月の新日本フィル<ハイドン定期>の東京デビューも好評を博した。

1990年は新日本フィル定期デビューと<ハイドン定期>への再登場、東京フィル<モーツァルト定期>、<倉敷音楽祭祝祭管弦楽団>等を指揮。以来、新日本フィル定期に再度登場、大阪フィル定期、広島交響楽団定期、新日本フィル<モーツァルト定期>、札幌交響楽団定期等を指揮し、室内楽を極めた音楽家ならではの名演を聴かせている。1994年には、5月に札幌響定期、6月に京都市響定期の指揮を務めた。

室内楽奏者として永年培われた、豊かで暖かな音楽性とアンサンブルでの明敏で細やかな感受性は、他の指揮者と一線を画するところである。

新響とは、1989年以來8回目の共演となる。



ブラームス：悲劇的序曲

山口 奏重（オーボエ）

Johannes BRAHMS：Tragic Overture

「よう、くま。おめえさん、今回の新響の前演目知っているかい？」

「おう、八つあん。何でも、ぶらあむすのしげきの序曲だって話だ。」

「そうかい、しげきのかい。ありゃあ、あたしゃ悲しいのよ、辛いのもあって感じが、ちと大仰な気もするが、しげき的でたまらないねえ。」

「違うよ、八つあん。しげき（刺激）的じゃあなくて、しげき（悲劇）的だよ。」

「んっ？。しげきのだろ？。中頃に、昔はいい事あったのに、今残るは絶望だけ、誰か助けておくれよって感じがあるだろ、あれがまた、しげきで、しげきで。」

「だから、八つあん……。」

閑話休題

ブラームスは、ちょっとしたボタンの掛け違いから、本人の意志とは別に、反ヴァーグナー、反未来音楽派として祭り上げられていた。それは、古典＝正統的な音楽を継承する作曲家を意味し、古き伝統をこよなく愛する大学などのアカデミックな機関から歓迎され1879年には、ドイツのブレスラウ大学から、名誉博士号の称号が授与されるに致った。

ブラームスは、その返礼として、『大学祝典序曲』を作曲する。この曲は、いくつかの学生歌をテーマとして、明朗で軽快な曲想を特徴とし、若かりし学生時代の底抜けの明るさ、楽しさが感じられる。そしてすぐ後、対の曲として、この『悲劇的序曲』が、作曲されるのである。但し『悲劇』は、10年前のスケッチに既に現れているため、『大学』よりかなり早く着想・着手された可能性が高い。『大学』の作曲により、想起されて完成に至ったのであろう。

ブラームス自身『大学』を笑いの序曲、『悲劇』を泣きの序曲と呼んでおり、異なった情感を湛えている。しかし泣きの序曲と呼ぶように、悲しみに打ちひしがれているようには聴こえるが、その悲しみの奥には常に力強いエネルギーが感じられるので、悲劇的（tragisch）というよりはむしろ、劇的（dramatisch）に聴えてしまうのは、私だけだろう

か。天才の悲しみは、凡人の悲しみとは異なるのかもしれない。

ベートーヴェンの《エロイカ》を彷彿させる、2つの和音打撃とソット・ヴォーチェの対比で開始され、すぐに劇的な発展・展開が行なわれる。性格の曖昧な対比調領域へ続き、ヘ長調、変イ長調へと転調、新しい素材が現われるが、断片、動機的なレベルに留る。続いて、ヘ長調となり、明確な対比性を持った本来の対比調領域があり、第2主題群とも言うべき性格をもっている。モルト・ピウ・モデラートになると、対位法書法で彩られたエピソード的な展開部が置かれており、独特の哀感を醸し出し、最後はニ長調へ転調する。そして、静かに再現部が導入され、縮小、展開し密度が濃くなる。バスの第1主題によって開始されるコーダは、第1主題と符点リズム音型が交錯し、やや呆気ないが、劇的な幕切れをする。

と解説書にある通りの、こむずかしい解説をしてみたが、何はともあれ、音楽は楽しんで聴くもの。また、1つの小さなドラマに見たてて、ヒーロー・ヒロインを演じながら聴いてみるのも一興かと思われる。悲しくも美しい遠い想い出、この夏終ってしまった恋、空想の悲哀物語……私のドラマは、これまた聞くも涙語るも涙……。

初演：1880年12月26日、ウィーンフィルハーモニーの第4回演奏会で、ハンス・リヒターの指揮による。

楽器編成：ピッコロ、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、弦楽5部

ヒンデミット：ウェーバーの主題による交響的変容

上原 誠（打楽器）

Paul HINDEMITH : Symphonic Metamorphoses on the theme of C.M. von Weber

パウル・ヒンデミットは今からちょうど100年前、ドイツのフランクフルトにほど近いハーナウに生れた。フランクフルトの高等音楽学校でヴァイオリンと作曲を学び、1920年代の後半頃までは歌劇場のコンサートマスターや室内楽の奏者として活躍しながら、しだいに作曲家としても頭角を現し、当時のいわゆる「新音楽」の旗手とすら言われるようになった。もともと才能に恵まれていた上、旺盛な知識欲と抜群の記憶力、物事を整理する能力にも長けていた彼は、既に卓越した作曲技術を身につけていた。

ところでドイツ人は昔から生れた土地によって人間を類型化することを好み、また概してそれは当たっていると言われている。このフランクフルトを中心とする地方の人、いわゆるフランク人のうち特に平野部に住む人は、明朗快活で話し好き、屈託がなく思ったことをすぐ口に出すため物議をかもしくともある反面、他民族に対してもこだわり無く接することができる。

ヒンデミットにはこの類型があてはまる。新しい技術や理論をあまりにも大胆に発表したため、当時既にかかなりの勢力になっていたナチスに好ましかる人物と目されるに至った。さらに時節を考えれば慎むべき発言や、彼自身はドイツ人だったが、ゴールドベルクやフォイヤーマンなどユダヤ人演奏家と組んで演奏活動をしていたことが拍車をかけ、やがてヒットラーの言う「頹廢した音楽」を作曲する「ユダヤ化した」人物としてナチスの宣伝相ゲッベルスと激しく対立、世に言う『ヒンデミット事件』に発展した。そして1937年、10年間にわたるベルリン国立音楽大学の作曲科教授の職を辞し、'40年にはアメリカに渡ってエール大学の教授となり、以降演奏活動よりむしろ教育に力を入れた。戦後はヨーロッパに戻りチューリヒに住み当地の大学で教鞭をとったほか、晩年は指揮者としても活躍し、常にフランク人気質を発揮した。

ところでヒンデミットの趣味は鉄道模型だったという。自宅にのべ300メートルに及ぶレールを敷き、信号や踏切、ポイントなどを配して楽しんでいただけで、並大抵の事ではない。前述の物事を整理する能力と、かなりの根気がなければ出来るもので

はない。またベルリン音大の教授に就任したころ、音楽は演奏する側に主体があり、アマチュア音楽家が社会の大部分を占めることこそ理想だとして「実用音楽」を提唱、『愛好家および音楽仲間が歌い、演奏する音楽』などを作曲し、多くの愛好家に演奏の喜びを与えた。これらのことから、自ら楽しみ、また人を楽しませることに關しては労苦をいとわない、フランク人にふさわしい愛すべき人物であったことを伺うことができる。

曲は1943年、アメリカに渡った後に作曲された。ヒンデミットの作風は初めはロマン主義からの脱却を図る新即物主義を推進、調性を否定し、「新音楽」の旗手として多くの後進に影響を与えた。しかし前述の「実用音楽」を経て、ベルリンを去るころからは旋律を大切に作る新古典主義的な作風に変化していった。彼は常に聴衆の理解ということを意識しており、ドイツでの排斥運動がその下地にあったのだろうか、渡米による変化ではないようだ。

この曲が「変容」とあるのは、主題に基づき展開してゆく「変奏」とはやや趣が異なることを意味している。第1楽章アレグロはウェーバーの『4手ピアノのための8つの小品 作品60』の第4曲を、また第3楽章は『4手のための6つの小品 作品10』の第2曲を、いずれもオーケストレーションを施しただけとも言えるほど、ほとんど手を加えていない。これに対し第2楽章は『“トゥーランドット”のための附随音楽 作品37』のさらに元曲である、J.J. ルソーの「音楽辞典」に掲載された『中国のうた』をヒンデミット流に料理しており、第4楽章“行進曲”は前述の作品60の第7曲が「マエストロ」と指示してあるのに対し、かなり早いテンポを設定してほとんどパロディーと呼べるものになっている。

なおこの曲の4楽章構成には、交響曲への憧憬が感じられる。

初 演：1944年1月20日、ニューヨーク交響楽団

楽器編成：ピッコロ、フルート2、オーボエ2、イングリッシュホルン、クラリネット2、バス・クラリネット、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、大太鼓、小太鼓、リユール太鼓、タムタム、タンブリン、トライアングル、小ゴング、シンバル、小シンバル、鐘、鉄琴、弦5部

ベートーヴェン：交響曲第3番変ホ長調「英雄」

岡本 明（ビオラ）

Ludwig van BEETHOVEN: Symphony No. 3 "Eroica" Op. 55

「英雄」はベートーヴェンの、いやすべての音楽の一つの頂点をなすものと言えるだろう。交響曲第1番、第2番の模索の段階から一挙に飛躍し、ベートーヴェンそのものを確立した曲である。

「英雄」のスケッチは、あの有名な「ハイリゲンシュタットの遺書」を書いた時期、1802年頃に書かれたという。絶望の底から不死鳥のように立ち上がろうとする、まさにその寸前のエネルギーを蓄えたベートーヴェンは、あふれ出る曲想をつぎつぎにノートに書き連ねたに違いない。完成は1803年10月という説と、1804年に入ってからという説があるようだが、初演はまずごく少数の人達の中で非公式に行われた。コンサートホールでの初演は1805年、出版は1806年である。

「なんて長い曲なんだ」「まったくうんざりする」などというのが当時の大半の批評だったという。音楽新聞にも「きまぐれで珍奇さが多すぎる」などと書かれた。それまでの交響曲といえ彼自身の第1番、第2番もそうだが、長くて30分程度のもだったから、50分を超えるこの曲は聴衆にとって“長大な”ものと思われても無理はない。この時代の人にマーラーやブルックナーなんか聞かせたらもう気が狂ってしまうに違いない。しかしあえてその常識を破って長いものを作ったベートーヴェンは、もちろん「長すぎる」という批評などはじめから予想していただろうし、いずれは受け入れられるという確信もあったはずである。それでも短気な彼は批評に対していちいち反論せずにはいらなかったとみえ、「そんなことを書くと、あなたの雑誌の評判が悪くなるだけだ」、「私がこのあと1時間以上の交響曲を書いたら、あなた方はきっと第3番は短すぎる、と言うようになるだろうさ」などと応酬したそうだ。とはいってもその後反省した(?)のか、実際に1時間を超えるのを書いたのは最後の第9番「合唱付」だけである。70分にも及ぶ第9でもこのときは大喝采だったというから時代によって聴衆の感覚も変わるものである。ちなみに、彼の9つの交響曲で次に長いのは第6番「田園」の約39分、第7番の約38分

で、第3番と第9番を除く7曲の平均は約31分（音楽の友社ポケットスコアによる）である。

ベートーヴェンははじめこの曲をナポレオンに献呈しようと思って書いたが、ナポレオンが皇帝になったと聞いて怒って表紙を真っ二つに破り捨て、タイトルを「ある英雄の思い出」と書き直した、という話はあまりにも有名である。だがこの辺の事情にはいろいろ説があって面白い。

この曲は、ウィーン駐在のフランス大使のベルナドットという将軍が、ナポレオンに捧げる曲を作るように勧め、当時まだ第1執政の地位にいたナポレオンの業績を高く評価していたベートーヴェンがその気になった、と言われていた。1779年頃、つまり彼がハイゲンシュタットに行く数年前のことである。しかし、このベルナドット将軍という人は当時反ナポレオン派の筆頭だったので、そんな人が曲の献呈など勧めるはずがない、という話や、いや、ベルナドット将軍は曲の献呈を勧めることによってナポレオンから良く思われようとしていたのだ、という人もいる。

ただ、いずれにしてもベートーヴェンはすぐにはスケッチに取りかからず、最初のスケッチは1802年頃になってからである。そしてスケッチを始めた頃にはもうナポレオンのため、というより彼の理想とする「英雄」像を表現したいという気持ちが強くなっていったようだ。たとえば、第2楽章にもう「英雄の死」葬送行進曲が来ている。まだ生きている、しかも曲を献呈しようとしているナポレオンの死を表わした楽章とはいくら何でも思えないから、ほかの「英雄」のための葬送曲と考えるのが自然である。ベートーヴェンは後にナポレオンが死んだとき「私は17年も前に、このことを予想して曲を書いた」と言ったそうだが、これもちょっとマユツバものである。第2楽章に葬送行進曲がおいてあることは、ほかにもいろいろ解釈ができる。「戦友の死を悼むナポレオン」を表わしたとも言えるかも知れないし、純音楽的に、アレグロの第1楽章と対比させたアダージョがほしかったのかも知れない。あるいはこの英

雄とはベートーヴェン自身のことで、これまでの自分の過去との決別を表わしたものであったかも知れない（筆者はこの解釈が好きである）。また、第4楽章は彼自身が以前書いたバレエ音楽「プロメテウスの創造物」の主題をつかった変奏曲である。このプロメテウスというのは人類に恩恵を与えた英雄的な神のことであるから、このことから「英雄」とは理想の英雄像を表わしたものと考えてよいと思われる。

曲は前述のように1803、4年頃完成した。そして表紙にははじめ次のように書かれていた。

「大交響曲 ボナパルトと題する 1804年8月
ルーイ・ヴァン・ベートーヴェン作曲 ボナパルト
に捧げる 交響曲第3番 作品55」

さて、この表紙というのはウィーンに保存されている自筆楽譜のものというから、怒り狂ったベートーヴェンが表紙を破り捨てた、という話とは合わない。真っ二つに破り捨てたというのは、いかにもベートーヴェンらしく劇的ではあるがちょっと芝居じみて出来すぎている。実際は表紙の文字を消して書き直したか（表紙には消したあとがあるらしい）、綴じしろを破って新しい表紙をつけ直した、というところが真相かも知れない。我々はこの曲の完成がナポレオンの即位の直前に完成していたことに感謝しなければならない。もしかしたら永久にこのすばらしい「英雄」は完成しなかったかもしれないのだ。

ベートーヴェンははじめはこの曲をナポレオンに献呈しようと思っていたが、出来上がった頃にはあげてしまうのをためらったようだ。献呈してしまっ
てはお金が入らないからである。ナポレオンを描いたという気持ちも薄らいできている。そこで思いついたのは、「ボナパルト」という題をつけるだけにすることであった。だがそれも先のようなことから変更されて、結果的にはこの曲は、ロブコーヴィッツ侯爵という人が数年間の期限付で買い取り、「ベートーヴェンによって、ある偉大な人間の思い出を祝うために作曲され、ロブコーヴィッツ侯爵殿下に捧げられた英雄交響曲（シンフォニア・エロイカ）

作品55 第3」と名付けられたのである。このエロイカというのは元はイタリア語（Eroico：英雄的な）で、英語、ドイツ語に借用されて Eroica、Eroika となったものである。

ロブコーヴィッツ侯爵が買い取っていた間、この曲は侯の邸宅で私的に何回か演奏されたいらしい（ベートーヴェンが指揮をしたのだが、途中でオーケストラが混乱し止まってしまったこともあるという）。交響曲を買い取って自宅で演奏するなんて、昔の貴族というのはとてつもない金持ちだったものだ。

ベートーヴェンはこの曲をたいへん気に入っていたらしく、のちにある人から自作の交響曲の中でどれが一番好きか、と聞かれて即座に「第3番」と答えたそうだ。「第5番ではないのですか」とさらに問われても「いや、第3番だ」と言ったという。この話は1817年頃、すなわち第9番が書かれる直前のことというので、第9と第3のどちらが好きかはわからないが、少なくともトップ2には入っている。

冒頭に書いたように「英雄」は音楽の一つの頂点であり、多くの人々に感動を与えている。私たちも大きなよろこびと感動をもって練習を積み重ねてきた。今日その感動と共感をどこまで演奏に表現することが出来るか、理想の英雄像を思い浮かべながらお聴きいただければ幸いである。

初 演：1805年4月7日、ウィーンのアン・デル・ウィーン劇場で、作曲家自身の指揮で。

楽器編成：フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン3、トランペット2、ティンパニ、弦5部

●新響150回演奏会史

回数	年月日	曲 目	指揮・独奏・合唱 独唱・合唱	会 場
1	1957.11.21	J.シュトラウス：ラデツキー行進曲、芸術家の生涯／グリーグ：オーゼの死／鈴木匡編世界民謡集／ベートーヴェン：交響曲第5番「運命」	指揮：芥川也寸志 合唱：東京労音会員による合唱団	日本青年館
2	1958.11.12	モーツァルト：劇場支配人序曲、アイネ・クライネ・ナハトムジーク、ピアノ協奏曲第26番「戴冠式」、交響曲第41番「ジュピター」	指揮：芥川也寸志 ピアノ：石浜和子	日本青年館
3	1959. 5.17	ベートーヴェン：エグモント序曲／J.シュトラウス：ラデツキー行進曲／シューベルト：交響曲第8番「未完成」／ベートーヴェン：交響曲第5番「運命」	指揮：芥川也寸志	謹教小学校 (会津若松)
4	1960. 1.23	モーツァルト：劇場支配人序曲／グルック：アウリスのイフゲニア序曲／シューベルト：交響曲第8番「未完成」／ベートーヴェン：交響曲第5番「運命」	指揮：芥川也寸志	上田市公民館
5	5.15	ベートーヴェン：交響曲第1番／J.シュトラウス：皇帝円舞曲／イワノフ：酋長の行列／ボンセ：エストレリータ／シューベルト：交響曲第8番「未完成」	指揮：芥川也寸志	富士見中学 (熊谷)
6	11.28	J.S.バッハ：管弦楽組曲第3番／モーツァルト：交響曲第40番	指揮：芥川也寸志	大田区民会館
7	1961. 4.25	ビゼー：アルルの女・第2組曲／メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲／シベリウス：フィンランディア／ドヴォルザーク：交響曲第9番「新世界より」	指揮：遠藤雅古 (第2オケ) 芥川也寸志 (第1オケ) ヴァイオリン： 山田耕作	共立講堂
8	11. 2	シューベルト：交響曲第8番「未完成」／ドヴォルザーク：交響曲第9番「新世界より」／チャイコフスキー：交響曲第5番	指揮：芥川也寸志	文京公会堂
9	11.19	同上	指揮：芥川也寸志	秩父高校体育館
10	11.22	同上	指揮：芥川也寸志	熱海市観光会館
11	1962. 4.24・ 26・ 29・ 30	シベリウス：フィンランディア、カレリア組曲／モーツァルト：交響曲第40番／チャイコフスキー：交響曲第5番	指揮：芥川也寸志	24日文京公会堂 26日厚生年金会館 29日文京公会堂 30日日比谷公会堂
12	5.19・ 20	同上	指揮：芥川也寸志	中央公民館(栃木)
13	1963. 3.10・ 16・ 18・ 19	グリンカ：「ルスランとリュドミラ」序曲／ベートーヴェン：交響曲第7番／ベートーヴェン：交響曲第5番「運命」	指揮：芥川也寸志	10日日比谷公会堂 16日東京文化会館 18日東京文化会館 19日産経ホール
14	4.21	ウェーバー：「魔弾の射手」序曲／J.シュトラウス：皇帝円舞曲／シューベルト：交響曲第8番「未完成」／ベートーヴェン：交響曲第5番「運命」	指揮：芥川也寸志	両毛小学校(足利)
15	6.16・ 17	同上	指揮：芥川也寸志	水戸市民会館
16	12.16・ 22・ 25・ 26・ 27	J.S.バッハ～ストコフスキー：トッカータとフーガ二短調／ベートーヴェン：交響曲第9番「合唱付」	指揮：芥川也寸志 S 嶺貞子 A 成田絵智子 T 板橋勝 B 川村英司、 小田清 合唱：東京労音合唱団、 同会員	16日東京文化会館 22～27日厚生年金 会館
17	1964. 4.25・ 26・ 27・ 28・ 29・ 30	グリンカ：「ルスランとリュドミラ」序曲／シューベルト：交響曲第8番「未完成」／ブラームス：交響曲第1番	指揮：芥川也寸志	25日HBCホール 26日江差高校講堂 27日室蘭市民会館 28日浦河中学講堂 29日土別市民会館 30日名寄高校講堂
18	5.25	シャブリエ：狂詩曲スペイン／ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番／ブラームス：交響曲第1番	指揮：芥川也寸志 独奏：井内澄子	日比谷公会堂
19	8.31	J.シュトラウス：「こうもり」序曲、皇帝円舞曲／チャイコフスキー：「白鳥の湖」より／レーウエ：「マイ・フェア・レディ」より／ロジャース：「回転木馬」より、「南太平洋」より	指揮：芥川也寸志 合唱：東京ブリマヴォークス	東京文化会館

回数	年 月 日	曲 目	指揮・独奏・合唱 独唱	会 場
20	1964.10.19	J.シュトラウス：「こうもり」序曲／シューベルト：交響曲第8番「未完成」／チャイコフスキー：交響曲第6番「悲愴」	指揮：芥川也寸志	八王子市民会館
21	1965. 2. 3	スメタナ：「売られた花嫁」序曲／ハイドン：交響曲第94番「驚愕」／チャイコフスキー：交響曲第6番「悲愴」	指揮：芥川也寸志	
22	3.28	スメタナ：「売られた花嫁」序曲／ハイドン：交響曲第94番「驚愕」／ベートーヴェン：交響曲第3番「英雄」	指揮：芥川也寸志	新宿小学校講堂 (千葉)
23	4.10・ 14・ 18	同上	指揮：芥川也寸志	10日東京文化会館 14日共立講堂 18日渋谷公会堂
24	4.22・ 23・ 24・ 25・ 26・ 27・ 28	同上	指揮：芥川也寸志	22日松山女子商講堂 23日宇和島市公会堂 24日新居浜市民文化センター 25日高知中央公民館 26日中村高校講堂 27日徳島市民会館 28日高松市民会館
25	7.24・ 25	ウェーバー：「魔弾の射手」序曲／シューベルト：交響曲第8番「未完成」／ベートーヴェン：交響曲第6番「田園」	指揮：芥川也寸志	浜松市民会館
26	8.23	ウェーバー：「魔弾の射手」序曲／ベートーヴェン：交響曲第6番「田園」／ベルリオーズ：ハンガリー行進曲／ドヴォルザーク：スラブ舞曲第10番、第1番／ラヴェル：ボレロ	指揮：芥川也寸志	東京文化会館
27	9.26	ワーグナー：「ローエングリン」第3幕への前奏曲／シューベルト：交響曲第8番「未完成」／ベートーヴェン：交響曲第5番「運命」	指揮：芥川也寸志	日立市民会館
28	12. 6	ワーグナー「ローエングリン」第3幕への前奏曲／ベートーヴェン：交響曲第8番／ドヴォルザーク：交響曲第9番「新世界より」	指揮：芥川也寸志	日比谷公会堂
29	1966. 4. 4	ボロディン：中央アジアの草原にて／伊福部昭：交響譚詩／芥川也寸志：絃楽のための三楽章／シベリウス：交響曲第2番	指揮：芥川也寸志	日比谷公会堂
30	9. 5	ベートーヴェン：交響曲第1番、交響曲第2番、交響曲第3番「英雄」	指揮：芥川也寸志	虎ノ門ホール
31	10. 2	ベートーヴェン：「レオノーレ」序曲第3番、交響曲第4番、交響曲第5番「運命」	指揮：芥川也寸志	虎ノ門ホール
32	11. 7	ベートーヴェン「エグモント」序曲、交響曲第6番「田園」、交響曲第7番	指揮：芥川也寸志	虎ノ門ホール
33	12.19	ベートーヴェン：交響曲第8番、交響曲第9番「合唱付」	指揮：芥川也寸志 S 常森寿子 A 福島久貴 子 T 金谷良三 B 常森闘志 合唱：日本合唱団・東京プリマヴォークス	虎ノ門ホール
34	1967. 4.17	ベルリオーズ：序曲ローマの謝肉祭／ハチャトリアン：ガイヌ第1番／レスピーギ：リュートのための古風な舞曲とアリア第3番／ブラームス：交響曲第4番	指揮：芥川也寸志	日比谷公会堂
35	8.17	伊福部昭：交響譚詩／カバレフスキー：組曲「道化師」より／芥川也寸志：絃楽のための三楽章／チャイコフスキー：交響曲第5番	指揮：芥川也寸志	東京文化会館
36	9.25・ 27・ 29・ 30 10. 3	グリンカ：ルスランとリュドミラ序曲／ベルリオーズ：ローマの謝肉祭序曲／カジラエフ：レスギンカ／カバレフスキー：組曲「道化師」より／シベリウス：フィンランディア／伊福部昭：交響譚詩／芥川也寸志：絃楽のための三楽章／チャイコフスキー：交響曲第5番	指揮：芥川也寸志	25日ハバロフスク 27日イルクーツク 29日モスクワ 30日モスクワ 3日レニングラード
37	12.14	コレリリ：合奏協奏曲ハ長調 Op.6-10／ドビュッシー：小組曲／ブラームス：交響曲第2番	指揮：芥川也寸志	日比谷公会堂

回数	年 月 日	曲 目	指揮・独奏・合唱	会 場
38	1968. 4. 8	ブラームス：大学祝典序曲／メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲／ベルリオーズ：幻想交響曲	指揮：芥川也寸志 ヴァイオリン： 徳永二男	厚生年金会館
39	10.14	モーツァルト特集：「魔笛」序曲、交響曲第40番、モテット「おどれ、喜べ、なんじ幸なる鬼よ」、交響曲第41番「ジュピター」	指揮：近衛秀麿 ソプラノ：常森寿子	虎ノ門ホール
40	12.23・ 26	J.S. バッハ～ストコフスキー：小フーガ短調／ベートーヴェン交響曲第9番「合唱付」	指揮：芥川也寸志 S 常森寿子 A 子安順子 T 金谷良三 B 蔵田裕行 合唱：合唱団“鯨”	日比谷公会堂
41	1969. 2. 2	C. バッハ：シンフォニア変ロ長調／モーツァルト：交響曲第40番／ベートーヴェン：交響曲第5番「運命」	指揮：芥川也寸志	石岡市民会館
42	4. 1	C. バッハ：シンフォニア変ロ長調／ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第1番／ショスタコーヴィチ：交響曲第5番	指揮：芥川也寸志 ピアノ：岡村梨影	東京文化会館
43	8. 4	J. シュトラウス：「こうもり」序曲、ウィーンの森の物語／チャイコフスキー：眠りの森の美女／グロフェ：組曲ミシシッピー／ロジャース：南太平洋／ポーター：カン・カン／レーウェ：マイ・フェア・レディ	指揮：芥川也寸志 合唱：東京混声合唱団	東京文化会館
44	10.26・ 29・ 30 11. 1・ 2・ 3・ 4	J. シュトラウス：「こうもり」序曲／シューベルト：交響曲第8番「未完成」／ドヴォルザーク：交響曲第9番「新世界より」	指揮：芥川也寸志	26日琉球大学ホール 29日佐賀市民会館 30日長崎市民会館 1日大分文化会館 2日北九州市小倉市民会館 3日都城市民会館 4日鹿児島文化センター
45	10.27 11. 2	J. シュトラウス：「こうもり」序曲／チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲／ドヴォルザーク：交響曲第9番「新世界より」	指揮：芥川也寸志 ヴァイオリン： 久保陽子	27日熊本市市民会館 2日福岡市民会館
46	12.21	ヘンデル：オラトリオ「メサイア」	指揮：芥川也寸志 S 安枝雅子 A 武藤道子 T 金谷良三 B 松尾篤興 合唱：合唱団“鯨”	厚生年金会館
47	1970. 4.13	リスト：交響詩「前奏曲」／ハイドン：交響曲第101番「時計」／ムソルグスキー～ラヴェル：組曲「展覧会の絵」	指揮：芥川也寸志	日比谷公会堂
48	8.20	スッペ：「軽騎兵」序曲／オッフェンバッハ：「天国と地獄」序曲／ニコライ：「ウィンザーの陽気な女房たち」序曲／リスト：ハンガリー狂詩曲第2番／ヘンデル：組曲「水上の音楽」／グロフェ：組曲「大峡谷」	指揮：芥川也寸志	東京文化会館
49	11. 4	モーツァルト：「後宮よりの誘拐」序曲／シューベルト：交響曲第5番／チャイコフスキー：交響曲第4番	指揮：外山雄三	共立講堂
50	12.21・ 23	バーバー：弦楽のためのアダージョ／ベートーヴェン：交響曲第9番「合唱付」	指揮：芥川也寸志 S 佐野順子 A 菊池洋子 T 金谷良三 B 田島好一 合唱：合唱団“鯨”	共立講堂
51	1971. 4.18・ 22	J.S. バッハ：管弦楽組曲第3番／ベートーヴェン：ヴァイオリン協奏曲／ブラームス：交響曲第3番	指揮：芥川也寸志 ヴァイオリン： 徳永二男	18日千葉文化会館 22日虎ノ門ホール
52	8.10	タイケ：旧友／メンデルスゾーン：結婚行進曲／チャイコフスキー：くるみ割り人形から行進曲／エルガー：威風堂々／ブリテン：青少年のための管弦楽入門／R. コルサコフ：交響組曲「シェヘラザード」	指揮：芥川也寸志 小林研一郎 (ブリテンのみ)	東京文化会館
53	10.28	芥川也寸志：交響管弦楽のための音楽／モーツァルト：フルート協奏曲第2番／マーラー：交響曲第1番	指揮：芥川也寸志 フルート：澄川千津	厚生年金会館
54	12.15・ 17	J.S. バッハ～ストコフスキー：パッサカリアと小フーガ短調／ベートーヴェン：交響曲第9番「合唱付」	指揮：芥川也寸志 S 大川隆子 A 秋葉京子 T 金谷良三 B 田島好一 合唱：合唱団“鯨”	日比谷公会堂

回数	年 月 日	曲 目	指揮・独奏・合唱	会 場
55	1972. 2. 7	J.S. バッハ：ストコフスキー：パッサカリヤと小フーガ／メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲／マーラー：交響曲第1番	指揮：芥川也寸志 ヴァイオリン： 黒沼ユリ子	日比谷公会堂
56	4. 2	モーツァルト：交響曲第36番「リンツ」／ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第3番／ベルリオーズ：幻想交響曲	指揮：小林研一郎 ピアノ：遠藤郁子	東京文化会館
57	11.12	ベルリオーズ：「ファウストの劫罰」より／モーツァルト：2台のピアノのための協奏曲K.365／ベートーヴェン：交響曲第7番	指揮：芥川也寸志 ピアノ：池場文美 中井正子	東京文化会館
58	12.15・ 17	J.S. バッハ：ストコフスキー：トッカータとフーガニ短調／ベートーヴェン交響曲第9番「合唱付」	指揮：小林研一郎 S 常森寿子 A 志村年子 T 金谷良三 B 原田茂生 合唱：合唱団「鯨」	日比谷公会堂
59	1973. 3.24・ 25	チャイコフスキーのタペ：イタリア奇想曲、ヴァイオリン協奏曲、交響曲第6番「悲愴」	指揮：芥川也寸志 ヴァイオリン： 徳永二男	24日東京文化会館 25日神奈川県立音楽堂
60	8.18	ベートーヴェン：交響曲第6番「田園」／プロコフィエフ：ピーターと狼／ガーシュウィン：パリのアメリカ人	指揮：芥川也寸志 小林研一郎	東京文化会館
61	11. 5	メンデルスゾーン：交響曲第4番「イタリア」／モーツァルト：ピアノ協奏曲第26番「戴冠式」／ストラヴィンスキー：舞踊組曲「火の鳥」	語り：浪花千栄子 指揮：芥川也寸志 ピアノ：小栗 豊	サンプラザホール
62	12.19・ 21	ワーグナー：トリスタンとイゾルデより「前奏曲と愛の死」／ベートーヴェン：交響曲第9番「合唱付」	指揮：芥川也寸志 S 常森寿子、小池容子 A 秋葉京子 T 金谷良三 B 平野忠彦 合唱：合唱団「鯨」 ノインテコール 他	サンプラザホール
63	1974. 3.31	モーツァルト：交響曲第35番「ハフナー」／ドビュッシー：牧神の午後への前奏曲／ショスタコーヴィチ：交響曲第5番	指揮：芥川也寸志 フルート：古田土勝市	東京文化会館
64	5.17	ベルリオーズ：ローマの謝肉祭序曲／ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第4番／ドヴォルザーク：交響曲第8番	指揮：芥川也寸志 ピアノ：弘中孝	杉並公会堂
65	8.10・ 25	ハチャトリアン：ガイースより第1組曲・第1組曲A／ビゼー：カルメン第1組曲、ファランドール／チャイコフスキー：「白鳥の湖」より	指揮：芥川也寸志 白鳥の湖おはなし (東京)黒柳徹子 (横浜)芥川也寸志	10日東京文化会館 25日神奈川県立音楽堂 東京文化会館
66	12.15	ベートーヴェン：交響曲第8番／芥川也寸志：弦楽のための三楽章／ストラヴィンスキー：舞踊組曲「ペトルーシュカ」	指揮：芥川也寸志 ピアノ：渡辺達	
67	1975. 4.23	シューベルト：交響曲第8番「未完成」／モーツァルト：レクイエム	指揮：芥川也寸志 S 常森寿子 A 志村年子 T 金谷良三 B 高橋大海 合唱：合唱団「鯨」	文京公会堂
68	6. 1	ストラヴィンスキー：舞踊組曲「火の鳥」、舞踊組曲「ペトルーシュカ」、舞踊組曲「春の祭典」	指揮：芥川也寸志 ピアノ：渡辺達	渋谷公会堂
69	8. 9	J.シュトラウス：「こうもり」序曲、狩、ウィーンの森の物語、トリッチトラッチポルカ／ゲールド：ラテンアメリカシンフォニエッタ／ムソルグスキー～ラヴェル：展覧会の絵	指揮：芥川也寸志 ツィター：河野保人 吹奏楽：瑞穂青少年吹奏楽団	東京文化会館
70	10.19	ブラームス：大学祝典序曲／モーツァルト：ファゴット協奏曲／ブルックナー：交響曲第4番「ロマンティック」	指揮：山岡重信 ファゴット：前田信吉	日比谷公会堂
71	12. 8・ 9	シベリウス：フィンランディア／ベートーヴェン：交響曲第9番「合唱付」	指揮：芥川也寸志 S 太田真己子 A 遠藤久江 T 小林久仁夫 B 阿部正芳 (以上合唱団員) 合唱：中央合唱団・第九合唱団	郵便貯金ホール
72	1976. 3.29	シャブリエ：スペイン狂詩曲／プロコフィエフ：キージェ中尉／シベリウス：交響曲第2番	指揮：芥川也寸志	郵便貯金ホール

回数	年 月 日	曲 目	指揮・独奏・合唱 独唱	会 場
73	1976. 9. 3	平尾貴四男：古代讃歌／箕作秋吉：小交響曲ニ長調／大木正夫：組曲「五つのお伽噺」／尾高尚忠：日本組曲／早坂文雄：古代の舞曲	指揮：芥川也寸志	東京文化会館
74	10.11	清瀬保二：日本祭礼舞曲／安部幸明：小組曲／高田三郎：山形民謡によるバラード／諸井三郎：小交響曲変ロ調／伊福部昭：交響譚詩	指揮：芥川也寸志	東京文化会館
75	1977. 2. 1	ブーランク：牡鹿／バルトーク：弦楽の為のディベルティメント／ブラームス：交響曲第2番	指揮：堤俊作	虎ノ門ホール
76	4. 4	ショスタコーヴィチ：交響曲第7番「レニングラード」	指揮：芥川也寸志	東京文化会館
77	8. 4	清瀬保二：日本祭礼舞曲／箕作秋吉：小交響曲ニ長調／尾高尚忠：日本組曲／早坂文雄：古代の舞曲／伊福部昭：交響譚詩	指揮：芥川也寸志	東京文化会館
78	10.30 11. 6	ベートーヴェン：交響曲第5番「運命」、交響曲第3番「英雄」	指揮：河地良智	神奈川県民ホール 渋谷公会堂
79	1978. 4. 1	小倉朗：交響組曲イ短調、日本民謡による5楽章、オーケストラのためのブルレスク、交響曲ト調	指揮：芥川也寸志	東京文化会館
80	4.26	小倉朗：オーケストラのための舞踊組曲、ヴァイオリン協奏曲、弦楽合奏のためのコンポジション、オーケストラのためのコンポジション嬰へ調	指揮：芥川也寸志 ヴァイオリン： 都河和彦	日比谷公会堂
81	8. 4	ドヴォルザーク：交響曲第9番「新世界より」／ロッシーニ：「どろぼうかささぎ」序曲／レオンカバルロ：「道化師」間奏曲／ヴェルディ：「椿姫」前奏曲、「運命の力」序曲	指揮：尾高忠明	郵便貯金ホール
82	12. 1	R.シュトラウス：交響詩「ティル・オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら」、楽劇「サロメ」より7つのベールの踊り、交響詩「英雄の生涯」	指揮：河地良智	日比谷公会堂
83	1979. 4. 6	早坂文雄：映画音楽「羅生門」より、古代の舞曲、左方の舞と右方の舞、管弦楽のための変容	指揮：芥川也寸志	東京文化会館
84	6. 2	ヒンデミット：ウェーバーの主題による交響的変容／シューベルト：交響曲第9番「グレート」	指揮：河地良智	日比谷公会堂
85	8. 4	芥川也寸志：交響三章／チャイコフスキー：交響曲第6番「悲愴」	指揮：芥川也寸志	東京文化会館
86	12. 1	マーラー：「花の章」、交響曲第5番	指揮：山田一雄	東京文化会館
87	1980. 4. 6	伊福部昭：オーケストラとマリムバのためのラウダ・コンチェルタータ、ヴァイオリン協奏曲第2番、シンフォニアブカーラ	指揮：芥川也寸志 マリムバ：安倍圭子 ヴァイオリン： 小林武史	東京文化会館
88	6.15	プロコフィエフ：「ロミオとジュリエット」より／ベートーヴェン：交響曲第7番	指揮：河地良智	東京文化会館
89	9. 6	ストラヴィンスキー：バレエ音楽「春の祭典」／ブラームス：交響曲第1番	指揮：山岡重信	東京文化会館
90	11.20	モーツァルト：コンチェルト・ロンドニ長調／マーラー：交響曲第6番	指揮：山田一雄 ピアノ：渡辺達	日比谷公会堂
91	1981. 4. 5	菅原明朗：交響写景「明石海峡」、チマローザの断章による合奏協奏曲、アコーディオンのための協奏交響楽、交響的幻影イタリア、ファンタジア	指揮：芥川也寸志 アコーディオン： 御喜美江	東京文化会館
92	7.29	芥川也寸志：チェロとオーケストラのためのコンチェルトオスティナート／ブルックナー：交響曲第7番	指揮：山岡重信 チェロ：安田謙一郎	東京文化会館
93	9.19	マーラー：交響曲第7番	指揮：山田一雄	新宿文化センター
94	11.29	J.S. バッハ～菅原明朗編曲：パッサカリヤ／ショスタコーヴィチ：交響曲第11番「1905年」	指揮：芥川也寸志	東京文化会館
95	1982. 4. 2	佐藤敏直：哀歌／清瀬保二：郷土舞踊、エレジー亡き母に捧ぐ、古代に寄す(改訂版)、ピアノ協奏曲(改訂版)、日本祭礼舞曲	指揮：芥川也寸志 ピアノ：林 光 構成：小宮多美江	東京文化会館
96	7. 3	ベートーヴェン：交響曲第6番「田園」／バルトーク：管弦楽のための協奏曲	指揮：山岡重信	簡易保険ホール
97	9.15	ショスタコーヴィチ：祝典序曲／伊福部昭：日本狂詩曲／チャイコフスキー：交響曲第5番	指揮：芥川也寸志	東京文化会館
98	1983. 1.23	モーツァルト：交響曲第35番「ハフナー」／マーラー：交響曲第9番	指揮：山田一雄	簡易保険ホール

回数	年 月 日	曲 目	指揮・独奏・合唱 独唱	会 場
99	1983. 4. 3	小倉 朗：交響組曲イ短調／松平頼則：南部子守歌を主題とするピアノとオーケストラの為の変奏曲／戸田邦雄：交響幻想曲「伝説」／渡辺浦人：交響組曲「野人」／別宮貞雄：管弦楽のための「二つの祈り」	指揮：芥川也寸志 ピアノ：土屋律子	東京文化会館
100	6.26	芥川也寸志：交響管絃楽のための音楽／ベートーヴェン：交響曲第9番「合唱付」	指揮：芥川也寸志 S 常森寿子 A 伊原直子 T 林 誠 B 栗林義信 合唱：湘南市民コール 松原混声合唱団	新宿文化センター
101	11. 1	紫田南雄：北園克衛の「三つの詩」／マーラー：交響曲第2番「復活」	指揮：山田一雄 独唱：S 大島洋子 A 木村宏子 合唱：新星日響合唱団	東京文化会館
102	1984. 1.29	モーツァルト：交響曲第40番／伊福部昭：オーケストラとマリムバの為のラウダ・コンチェルタータ／ショスタコーヴィチ：交響曲第5番	指揮：芥川也寸志 マリムバ：安倍圭子	新宿文化センター
103	4. 1	伊藤俊幸：オーケストラのためのコンポジション／佐藤喜美：前奏曲「エメラルドの幻影」／林芳輝：箏と管弦楽のためのラブソディ／安達弘潮：語部とオーケストラの為の交響的物語「遠き神々の物語」／片岡良和：抜頭によるコンポジション	指揮：芥川也寸志 箏：松坂尚子 語り：熊倉一雄	東京文化会館
104	6.24	ベートーヴェン：交響曲第3番「英雄」／ワーグナー：楽劇「ニーベルングの指環」第3夜「神々の黄昏」より	指揮：山田一雄	新宿文化センター
105	9.26	マーラー：交響曲第3番	指揮：山田一雄 独唱：伊原直子 合唱：晋友会、藤沢 ジュニアコーラス	昭和女子大学 人見記念講堂
106	1985. 1.27	近衛秀麿：越天楽／ブラームス：交響曲第3番／ホルスト：組曲「惑星」	指揮：山岡重信	新宿文化センター
107	4. 7	小山清茂：管弦楽のための「信濃囃子」、弦楽のための「アイヌの唄」、テープを伴った管弦楽のための「鄙歌」第1番、管弦楽のための「うぶすな」、交響組曲「能面」	指揮：芥川也寸志 構成：小宮多美江 ピアノ：渡辺達	東京文化会館
108	7.20	シューベルト：交響曲第8番「未完成」／マーラー：交響曲「大地の歌」	指揮：山田一雄 独唱：A 辻 宥子 T 伊達英二	新宿文化センター
109	11. 3	ベルリオーズ：序曲「ローマの謝肉祭」／ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番「皇帝」／チャイコフスキー：交響曲第4番	指揮：芥川也寸志 ピアノ：須田真美子	東京文化会館
110	1986. 4. 6	マーラー：交響曲第8番「一千人の交響曲」	指揮：山田一雄 独唱：S 豊田喜代美・大倉由紀枝・岩崎由紀子 A 辻宥子・春日成子 T 林誠 Bar 勝部太 Bas 岡村喬生 合唱：新響30周年祝祭合唱団 武蔵野合唱団 荒川少年少女合唱隊 台東区立金竜小学校音楽部 藤沢ジュニアコーラス 多摩ファミリーシンガース	東京文化会館
111	7.20	モーツァルト：交響曲第39番／ショスタコーヴィチ：交響曲第4番(日本初演)	指揮：芥川也寸志	新宿文化センター
112	9.23	山田耕筰：音「曼羅陀の華」／ストラヴィンスキー：バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)／ベートーヴェン：交響曲第5番「運命」	指揮：芥川也寸志	新宿文化センター
113	11.30	芥川也寸志：アレグロ・オスティナート、絃楽のための三楽章、交響管絃楽のための音楽、エローラ交響曲、交響曲第1番	指揮：芥川也寸志	東京文化会館
114	1987. 1.25	平尾貴四男：古代讃歌／早坂文雄：左方の舞と右方の舞／小倉朗：オーケストラのための舞踊組曲／伊福部昭：タブカーラ交響曲	指揮：芥川也寸志	サントリーホール

回数	年 月 日	曲 目	指揮・独奏・合唱	会 場
115	1987. 4. 5	李煥之：春節組曲より／呉祖強：二泉映月／チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲／朱踐耳：納西一奇	指揮：芥川也寸志 ヴァイオリン：左軍	東京文化会館
116	6.21	マーラー：交響曲第10番よりアダージョ／ムソルグスキー～ラヴェル：展覧会の絵／ラヴェル：「ダフニスとクロエ」第2組曲	指揮：山田一雄	サントリーホール
117	9.26	ハイドン：交響曲第88番「V字」／ドビュッシー：交響詩「海」／ルトスワフスキー：管弦楽のための協奏曲	指揮：今村 能	新宿文化センター
118	1988. 1.17	ムソルグスキー：はげ山の一夜／ラヴェル：スペイン狂詩曲／マーラー：交響曲第4番	指揮：山田一雄 独唱：大沼美恵子	新宿文化センター
119	4. 3	ファリャ：「はかなき人生」より、スペインの庭の夜、「三角帽子」第2組曲	指揮：芥川也寸志 独唱：春日成子	東京文化会館
120	7.31	マーラー：交響曲第9番より第4楽章、さすらう若人の歌、交響曲第1番	指揮：山田一雄 独唱：伊原直子	サントリーホール
121	10.16	バルトーク：舞踊組曲／R. シュトラウス：オーボエ協奏曲／ブラームス：交響曲第4番	指揮：森山 崇 オーボエ：柴山 洋	昭和女子大学 人見記念講堂
122	1989. 1.22	デュカス：魔法使いの弟子／レスピーギ：「リュートのための古代舞曲とアリア」第3番／ベルリオズ：幻想交響曲	指揮：山田一雄	サントリーホール
123	4. 1	ストラヴィンスキー：ペトルーシュカ／チャイコフスキー：交響曲第6番「悲愴」	指揮：本名徹二	東京文化会館
124	7.23	シューマン：交響曲第4番／細川俊夫：ヒロシマレクイエム〔委嘱初演〕	指揮：今村 能 合唱総指揮：田中信昭 混声合唱：合唱団 OMP 児童合唱：東京少年少女合唱隊 混声四部ソロ：永石菊乃、浜田理恵、我孫子奈純美、小畑朱美、植木紀夫、田中孝男、佐野正一、谷篤	サントリーホール
125	10.21	ベートーヴェン：交響曲第8番／R. シュトラウス：交響詩「死と変容」／ドヴォルザーク：チェロ協奏曲	語り：ジョン・プロウカリング 指揮：原田幸一郎 チェロ：毛利伯郎	新宿文化センター
126	1990. 1.20	芥川也寸志：交響管弦楽のための前奏曲（初演）、ボイパの川とボイパの木・交響曲第1番	指揮：山田一雄	新宿文化センター
127	4. 1	ショスタコーヴィチ：交響曲第1番／ブラームス：交響曲第1番	語り：岸田今日子 指揮：高関 健	東京文化会館
128	7.22	ドヴォルザーク：交響曲第9番「新世界より」／ドビュッシー：小組曲／レスピーギ：ローマの松	指揮：山田一雄	東京文化会館
129	10.21	ベートーヴェン：コリオラン序曲／シベリウス：ヴァイオリン協奏曲／チャイコフスキー：マンフレッド交響曲	指揮：原田幸一郎 ヴァイオリン：漆原朝子	サントリーホール
130	1991. 1.19	松村禎三：管弦楽のための前奏曲／石井眞木：笛とオーケストラのための協奏曲「解脱」／伊福部昭：交響頌偈「釈迦」	指揮：石井眞木 横笛：赤尾三千子 合唱：合唱団 OMP	東京芸術劇場
131	4.21	ワーグナー：「トリスタンとイゾルデ」前奏曲と愛の死／R. シュトラウス：交響詩「ドンファン」／スクリャービン：交響組曲第2番	指揮：フランシス・トラビス	東京芸術劇場
132	7.21	フランク：交響曲／ラヴェル：道化師の朝の歌／ビゼー：「アルルの女」第1組曲・第2組曲	指揮：山田一雄	東京文化会館
133	11. 4	ヴェルディ：「運命の力」序曲／R. シュトラウス：「ばらの騎士」組曲／ベートーヴェン：交響曲第7番	指揮：原田幸一郎	川口総合文化センター・リリアホール
134	1992. 1.19	ベートーヴェン：「献堂式」序曲／ベルク：「ヴォツェック」より3つの断章／シューベルト：交響曲第9番	指揮：フランシス・トラビス	新宿文化センター
135	4.11	夏田昌和：モルフォジェネシス（新響公祭作品）／一柳慧：ピアノ協奏曲第1番「空間の記憶」／石井眞木：交響三連作「浮遊する風」（連作初演）	指揮：石井眞木／夏田昌和 ピアノ：一柳慧 オーボエ：柴山洋 打楽器：山口恭範	東京文化会館
136	7.19	山田和男：大管弦楽のための交響的「木曾」／マーラー：交響曲第5番	指揮：小泉和裕	サントリーホール
137	10. 4	ウェーバー：「オイリアンテ」序曲／バルトーク：管弦楽のための協奏曲／ブラームス：ピアノ協奏曲第1番	指揮：原田幸一郎 ピアノ：野島稔	東京芸術劇場

回数	年 月 日	曲 目	指揮・独奏・合唱 独唱	会 場
138	1993. 1.30	チャイコフスキー：ロメオとジュリエット／芥川也寸志：交響 三章／R. コルサコフ：シェヘラザード	指揮：フランシス・ト ラビス	東京文化会館
139	4.24	ワーグナー：「ローエングリン」第1幕への前奏曲、「タンホ イザー」序曲／ブルックナー：交響曲第4番「ロマンティック」	指揮：飯守泰次郎	東京文化会館
140	7.10	ドヴォルザーク：交響曲第8番／ラヴェル：マ・メール・ロ ワ、ラ・ヴァルス	指揮：原田幸一郎	東京芸術劇場
141	10.10	藤田正典：オーケストラのための「輪廻」（委嘱初演）／伊福 部昭：オーケストラとマリンバのための「ラウダコンチェル タータ」／チャイコフスキー：交響曲第5番	指揮：石井眞木 マリンバ：安倍圭子	東京芸術劇場
142	1994. 1.29	モーツァルト：交響曲第33番／伊福部昭：日本狂詩曲／ショス タコーヴィチ：交響曲第10番	指揮：小泉和裕	東京芸術劇場
143	4.23	ロッシェニ：「どろばうかささぎ」序曲／伊福部昭：交響譚詩 ／ブラームス：交響曲第2番	指揮：原田幸一郎	東京芸術劇場
144	7.23	伊福部昭：日本組曲／マーラー：交響曲第2番「復活」	指揮：小林研一郎 独唱：S 大倉由紀枝 A 伊原直子 合唱：武蔵野合唱団	東京文化会館
145	10.10	ウェーバー：「魔弾の射手」／ベートーヴェン：交響曲第4番 ／伊福部昭：シンフォニアタプカーラ	指揮：原田幸一郎	東京芸術劇場
146	1995. 1.16	ベートーヴェン：交響曲第2番／ドビュッシー：交響詩「海」 ／ファリャ：三角帽子	指揮：フランシス・ト ラビス	東京芸術劇場
147	4.30	モーツァルト：交響曲第31番「パリ」／マーラー：交響曲第7 番	指揮：小泉和裕	東京芸術劇場
148	7.16	サン＝サーンス：ギーズ公の暗殺／ハンス・アイスラー：「雨」 についての14の描写／サティ：幕間／深井史郎：空想部落／武 満徹：弦楽のためのホゼイトレス／芥川也寸志：煙突の見える 場所、猫と庄造と二人のおんな、八甲田山、日蓮	指揮：小松一彦	東京芸術劇場
149	7.30	ワーグナー：「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲 ／ブルックナー：交響曲第8番	指揮：飯守泰次郎	サントリーホール
150	10.15	ブラームス：悲劇的序曲／ヒンデミット：ウェーバーの主題に よる交響的変容／ベートーヴェン：交響曲第3番「英雄」	指揮：原田幸一郎	東京芸術劇場

予告！新響創立40周年シリーズ

新交響楽団は来年、楽団創立40周年を迎えます。それを記念して、各演奏会ごとにテーマを設け、一層充した内容でお送りすることにしました。どうぞご期待ください。

第151回演奏会 〈オペラ・コンチェルトンテ～日本最高のワーグナー歌手を迎えて〉

ワーグナー：歌劇「タンホイザー」～序曲（パリ版）

ワーグナー：楽劇「ワルキューレ」第1幕全曲

ジークリンデ：渡辺美佐子 ジークムント：若林明志 フンディング：高橋啓三

指揮：飯守泰次郎 1996年1月20日（土）東京芸術劇場大ホール 6：30開演

第152回演奏会 〈旧ソ連の音楽から——芥川也寸志へのオマージュ〉

ショスタコーヴィッチ：交響曲第9番 変ホ長調

ハチャトゥリアン：バレエ音楽「ガイヌ」より

プロコフィエフ：交響曲第5番 変ロ長調

指揮：小泉和裕 1996年4月14日（日）東京芸術劇場大ホール 2：00開演

第153回演奏会 日本の交響作品展 '96 — 1

指揮：本名徹二 1996年7月6日（土）東京芸術劇場大ホール 6：30開演

第154回演奏会 日本の交響作品展 '96 — 2

指揮：本名徹二 1996年7月7日（日）サントリーホール 2：00開演

第155回演奏会 〈オール・ベートーヴェン・プログラム〉

ベートーヴェン：序曲「レオノーレ」第3番

ベートーヴェン：交響曲第6番 へ長調「田園」

ベートーヴェン：交響曲第5番 ハ短調「運命」

指揮：原田幸一郎 1996年10月10日（木・祝）オーチャードホール 2：00開演

なお、曲目は都合により変更する場合がございますので、あらかじめ御了承ください。

音楽のある幸せ、
届けます。



この先もずっと、音楽のある幸せが
続いてほしい、と思います。
誰もが手軽に、音楽を楽しめるように。
つくる人も安心して創作活動に
専念できるように。
JASRACは著作権の管理を通して、
音楽の未来を守っています。

JASRAC

日本音楽著作権協会

〒105 東京都港区西新橋1-7-13 ☎(03)3502-6551